

ミュージカルを通して心を育てる活動を

市民ミュージカル『いのちのおはなし』

3月3、4日の両日、多久ミュージカルカンパニーの第2回公演『いのちのおはなし』が多久市中央公民館で行われました。日常生活や東日本大震災を通して命について考え、自分から行動することの大切さを訴えました。

来場者は2日間（全4公演）で1200人と大盛況。構成・演出を務めた青柳達也さんは、最終公演の舞台あいさつで「ミュージカルを通して、芸術作品としてだけでなく心を育てる活動をこの多久で行っていきたい」と話し、今後の活動にも意欲的です。

▶「ありがとうございました！」ミュージカル公演後観客にあいさつする出演者ら



▶「命は時間」この言葉の意味を探す1幕
▶「命は時間」この言葉の意味を探す1幕
▶「命は時間」この言葉の意味を探す1幕



▶東日本大震災の被災者のためにできることを考える3幕



卒業おめでとう！

市内小中学校で卒業式

3月9日に中学校で、3月16日に小学校で卒業式が行われ、中学3年生223人と小学6年生232人に卒業証書が授与されました。

東部中では、55人が卒業式を迎え、保護者や先生方、来賓が見守るなか、大谷清純校長から卒業証書を受け取りました。

大谷校長は、「困難や苦しみに負けず、耐え抜くことが成長につながります。夢や目標を達成するためチャレンジしてください」と言葉を贈り、卒業生代表の田中友晶さんが、「周りの人に思いやりを持ち、感謝されるような人に成長していくことを誓います」と答辞を述べました。

また卒業式の後、連風揚げが行われ、生徒たちの夢が詰まった連風が大空に舞い上がりました。



▲卒業生を代表して答辞を述べる田中友晶さん（東部中）

▶卒業生一人ひとりの思いや夢を「1文字」に込めた連風。卒業生と保護者で、新しい門出に期待を込め、笑顔いっぱいではげました



開園46年 最後の卒園式

学校法人多久カトリック幼稚園（平田敬園長）で最後の卒園式が行われました。年長児ふじ組の卒園生6人に園長から卒園証書が1人ずつ渡されました。式前には、年中児さくら組8人に対しての修了式も行われました。

昭和41年に開園した多久カトリック幼稚園は、お祈りを通して思いやりのあるやさしい子どもに育てる教育方針で、今まで1,282人の卒園生を送り出しましたが、園児の減少で、今年度をもって閉園となりました。



3/22

東日本大震災の被災地へ支援続く！軽トラ市で募金活動

『よって見んしゃい！軽トラ市多久』が、毎月第2日曜日に行われています。3月は東日本大震災の発生から1年を迎えた11日が開催日。主催の筋原商工連盟は、被災した方々の力になりたいと、会場で募金を呼びかけました。

集まった15,460円は、3月15日に筋原商連の役員3人が市長へ手渡しました。この義援金は、日本赤十字社を通じて被災地へ届けられます。筋原商連の役員は「今後も継続した支援を行いたい」と話しました。



3/15